

連携室だより 第7号

島根県歯科医師会 在宅歯科医療連携室

日頃より在宅歯科医療連携室の運営にご協力いただきありがとうございます。

在宅医療連携室では、在宅療養や施設入所などで歯科医院への通院が難しい方の口腔に関する困り事の相談を受ける「歯科の往診ほっとライン」を設置しています。かかりつけ歯科医を持っていない、かかりつけ歯科医が往診を行っていないなど、往診の依頼先に困るような場合もご利用ください。

「電話したらすぐ対応してもらい、歯科医師が往診してくれた」との声もいただいています。

歯科の往診ほっとライン（島根県歯科医師会事務局内）

☎0852-27-8020

平日 9:00~17:00 *土日・祝日・年末年始は対応していません



松江城の水燈路

連携室トピックス

先日、原因不明の食欲不振、体重減少と全身倦怠で入院中である80歳男性のご家族から「義歯の調子が悪い」と往診希望の電話をいただき、その日の通常の診療が終わってから、病院に往診に行きました。ご自分の歯が2本残っており、義歯の状態はその歯にかけるためのバネ2本のうち、1本は折れており、もう1本は折れ曲がって本来あるべき位置になく、義歯の安定を失っていました。

男性は歩行困難以外、日常生活に問題はなく、深刻な嚥下障害もありませんでした。翌日、義歯修理のための型採りに出向き、修理後は問題なく使ってもらえるようになり、食事も軟飯、軟菜から普通食にアップし、噛みやすく、飲み込みやすくなったとのことでした。

担当の看護師さんと話をしていると感じたことは、高齢の方の場合は食欲不振や体重減少があっても、入院早期に歯や義歯の良し悪しを考える事は少なく、まして歯や義歯の状態を含めた口腔機能の状態を判断するのは難しいということでした。

ほんの一例ではありますが、このように歯や義歯を含めた口腔機能がどんな状態にあるのか、それに対してどうするのかは多職種連携が重要と考えます。

この方のように、義歯の修理調整をするだけで口腔機能と食形態の不一致を解消でき、随分と状況が好転することもあります。

歯科の往診は入院治療、退院後や介護を受けている方の口の困りごとが起きてから相談される場合がほとんどですが、実は歯や義歯の状態は通院から遠ざかっている期間が長いほど悪くなっているため、いよいよとなってからでは治療がより困難になります。介護等が必要になったらできるだけ早い段階から、継続的な歯科診療を受けることをおすすめします。

Column コラム

今からおよそ 30 年前の事です。

百歳を迎えられた男性に長寿の秘訣をお尋ねしたところ、「腹八分」「感謝の心」そして「歯を大事にする事」と返答され、口を開け自慢の歯を見せて下さいました。更に「口の中をきれいにしておくと病気がかからない」という、幼少の頃からのお母様の教えがあったとのことにお話に感服しました。

今日では、口腔の健康がもたらす心身への有効性が検証されたことは、皆が知るところです。

人が幸せを感じる時の一つに、「おいしいものを食べている時」と多くの人が答えているように、人は生まれてから食べ物を口にして栄養を摂り、味を楽しみ、喜びを感じ、時にはそれが、家族をはじめ様々な人との交流の場になったりします。まさに食べる事を通して、日々小さな幸せが繰り返されているのです。

しかしながら、今後、更に加速する高齢社会においては、加齢による食べる機能の低下に加え、多岐にわたる要因が絡み合って引き起こされる「食」の問題を抱えた方々の増加が予測されています。

その解決のためには、本人、家族を巻き込んだ多職種チームによる包括的支援が不可欠です。私達訪問看護師は、利用者の住まいに訪問し、全身状態の観察から始めます。口腔内にトラブルは無いのか、上手く咀嚼や嚥下ができているか、食事形態はマッチしているか、栄養状態はどうか等、必要なアセスメントを行います。その上で改善の必要有りと判断すると、主治医、ケアマネージャーと連携し、状況に応じて歯科診療に繋がります。

利用者の中には、病態によって受診が困難な方もあり、訪問歯科診療を大変感謝されています。治療と指導をベッドサイドで受け、見違えるほど元気になられた方が多くあります。

今後も、それぞれの機能を活かしたチームアプローチにより、療養者の QOL の向上を目指したいと思っています。

高橋

